



用はで、牧場にはりめぐらした柵の象形で“はりめぐらす”のが本義です。「用心」は“心を用いる”ことだと解いていますが、“心をはりめぐらす”ことだと解くべきでしょう。柵のどこが破れても牛は逃げてしまいます。火の用心は、どこにちょっとした油断があっても大事をひき起こします。どこにも欠けた所がないように心を周囲のすみずみまではりめぐらすのが「用心」ということなのです。柵は牧場になくってはならぬものなので、“必要”“役に立つ”“使う”の意味が生まれました。

甬は、柵の上に人の頭に見える様子です。柵の様子を見に柵にそって“まわる”のが本義です。

踊は、“足でぐるぐるまわる”という意味で“おどる”ことを表わしています。舞踊というものは、輪を作ってぐるぐる回りながら踊るものです。

俑は、見かけない字ですが、孟子という書物に、孔子が“始めて俑を作った人はその子孫がほろびるであろう”と言って俑を作った人を憎んだことが見えています。人形ですが、手足が動くようになっていたと言いますから、“踊る人形”の意味で、甬ととで作られたのかと思われます。

涌は、“水が踊る”という意味の字です。地中から、地下水が踊り出るように“わく”ことです。涌の音はで、甬、俑、踊、皆同じです。

勇は、甬と力との会意形声です。“湧き出る力”という意味の字で、泉

の湧き出るように自然と心の中にみなぎってくる力が「勇氣」です。たまり水のように使えばなくなってしまうような力ではなく、使っても使っても溢れてくるような力です。音はが変化した yû。

湧は、全く涌と同じ意味の字です。発音は、ヨウともユウとも読まれます。湧出(ユウシュツ、ヨウシュツ)。

通は、柵にそって道を行き来するのが本義です。柵があって安心してとおれるので、“物事がうまく行なわれる”の意味に用いられます。「通人」というのは、「世の中の万事を知りつくした人」という意味です。通は、単に「歩く」「行く」の意味ではなくて、“すらすらと”という意味が加わった字です。通用。通読。音はから変化したトウ、またはツウ。

桶は、まわりを木でぐるっと囲んで作った“おけ”ということが想像できましたか。この甬は“はりめぐらす”の本義によったもので、“木をはりめぐらして作った容器”という意味の字です。音はですが、トウ、ツウの音もあります。

痛は、体じゅうにはりめぐらされた神経に感ずる病気という意味の字で、“いたむ”ことを表わしています。痛み自体は病気ではありません。体のある部分が病気で異状を呈していることを通信するのが“痛み”である訳です。音は、通と同じツウです。痛快、痛感というように、“ひどく……”の意味にも使われます。